



せとまちだより

SETOMACHI-COMMUNITY NO32

令和4年7月27日(水)
瀬戸地域まちづくり協議会
香岐市芦辺町箱崎大左右触924
080-8574-5853
発行責任者 町田 正一

市道 恵美須～少式線など除草作業終了しました

6月26日(日)午前8時から2時間ほど、恵美須～少式入口、蟹田バス停花壇、元瀬戸タクシー前歩道下・少式公園の除草作業を行いました。道にはみだした草はきれいに刈り取られました。これまで、ボランティアで実施していましたが、協議会委員全員参加で行なったほうが、まちづくりとして意義があるのではないかとの意見により、部会を2班に分け、夏と初冬の2回、除草作業をすることにしました。今回、参加の総務部会・地域づくり部会・子ども部会(半分)の委員・浦会青年部のみなさん、そして、ボランティアで参加の皆さんありがとうございました。



少式公園の草刈り(ひまわりグループ)

吉野 纏さん



除草前 →
除草後 ↓



今月のSDGs



許斐葵愛さん



市山駆壘さん



ゴミを減らすための3Rとは 3Rとは、循環型社会形成推進基本法で示されたごみ処理の優先順位のうち、上位の3つである発生抑制(Reduce=リデュース)、再使用(Reuse=リユース)、再生利用(Recycle=リサイクル)の3つの単語の頭文字です。

リデュース(発生抑制) ゴミを発生させない ⇒ マイバックなど

リユース(再使用) ものを繰り返し使うこと ⇒ 不用品の再使用など

リサイクル(再生利用) 資源として再利用すること ⇒ 資源ごみの分別回収に協力など

【4Rは、3R+(Refuse=リフューズ(断る)ごみになるものを断ること⇒過剰包装は断るなど)】



令和4年度の特健診は6月1日から始まっています
年に1度は健診を受けましょう!!

「チャレンジ健康づくり」でポイントゲット!!

おたすけ健康スタンプラリーでポイントを集めて、楽しく健康づくりに取り組みましょう!!

- 対象 18歳以上の香岐市民
- 内容 対象事業への参加、取り組みでポイント貯めると、ポイントに応じて参加賞、満点で記念品を贈呈します。
- 対象事業 健診(特定健診、後期高齢者健診、先取り健診等)受診、がん検診受診、歯周疾患検診で5ポイント
チャレンジ健康づくり(自分で目標を決めて健康づくりに取り組む)で3ポイント
まちづくり出前講座(健康分野)の受講で1ポイント
他健康づくりに関する対象事業参加、取り組みでポイントゲット!!
詳しくは、「令和4年おたすけ健康スタンプラリーのお知らせ」をご覧ください。

減塩に取り組んで
みましょう。



<問合せ先> 香岐市健康増進課 電話 45-1114(直通)(8:30~17:15 但し、土日、祝祭日は除く)

台風が多発する季節になりました

非常時の持ち出し品
準備は大丈夫ですか?

非常時の持ち出し品 香岐市土砂災害ハザードマップより

- | | |
|---|--|
| ☐ 非常持出袋 | 持出品をあらかじめ入れておき、両手がふさがらないように |
| ☐ 飲料水 | 一人一日3リットルを目安に。 |
| ☐ 食糧 | 火を通さずに食べることができ、保存の可能なものに。 |
| ☐ ラジオ | 災害時は正しい情報で、正しい行動を!
電池も用意。また、発電機付きのものもある。 |
| ☐ 応急医療品 | ばんそうこう、包帯など。病人やお年寄りには薬も。 |
| ☐ 衣類・帽子(ヘルメット)
雨具 | 夏でもケガ防止のために長袖長ズボンを。
落下物から頭を守るため、ヘルメットを。
タオルは清潔なものを複数枚。下着はコンパクト
肌着セットなども市販されている。 |
| ☐ タオル・下着 | |
| ☐ ライター | 火がつくかどうかの確認を。 |
| ☐ ろうそく | 太くて安定感のあるものを。 |
| ☐ 懐中電灯 | 停電や夜間の行動に必要。電池も用意。発電機付き
もある。ただし片手で使えるものが望ましい。 |
| ☐ 軍手 | ガレキなどを除去するほかに、手の保温もできる。 |
| ☐ 多機能ナイフ | ナイフや缶切りなど、さまざまな用途がコンパクト
になっていて便利。 |
| ☐ ポケットティッシュ | 携帯できるので、思わぬケガをした時の傷口の保護
などに使える。用途はいろいろ。 |
| ☐ トイレットペーパー | 芯を抜いて、つぶしておくとかさばらなくてよい。 |
| ☐ 貴重品・現金(小銭も) | 預金通帳、印鑑、健康保険証のコピーなど。 |
| ☐ 生活必需品 | メガネ、補聴器、コンタクトレンズ(洗浄液も)、生
理用品など各自の生活必需品を。 |





プレイバック写真

芦辺町時代 高齢者の健康相談が毎月、箱崎地区公民館で実施されていました。（写真は平成3年頃）

新型コロナが流行りよるとちね～
マスク忘れんとよ～



もっと知リたか瀬戸んこつ……瀬戸地域の信仰

記録によれば嘉吉元年（1441年）室町時代の頃は、瀬戸浦居三〇戸とあるが、此の以前浦居三戸とある頃から、瀬戸浦は漁業を以て生業としてきたことがうかがわれる。

漁村には、昔から今日まで強くしかも純粋に神仏を崇敬する風習が続いている。それは漁民生活の血液となっているのであろう。板子一枚下は地獄といわれるとおり、小船に乗って命がけで魚を獲る漁師の生活には、過去幾多の遭難が繰り返されてきた。人の力ではどうにもならない天災地変に対する救いを神仏に求めて、生命の安全と豊漁を願うところから信仰が根強く育って来たものと思われる。

【壱岐瀬戸浦史 第五章 信仰と祭祀組織 第一節 伝統的な民間信仰の諸形態 より引用】



この写真は、昭和28年3月に篠栗四国参拝の時の記念写真で、小島忠男さん提供です
裏面には、撮影年月と、小島音松・小島武廣・小島マツ と記されています

当時、篠栗参拝のため、積立をされていたようです

昭和の地域活性化事業



芦辺町商工会主催

七夕まつり

昭和62年夏・「瀬戸・芦辺七夕まつり」が開催され、瀬戸会場は西町公民館前広場に各公民館が作った七夕飾りが立てられました。



昼寝の後で、まだ眠たい
陽愛里（ひまり）ちゃん



お父さんはどっち？

とっしゃんの ひとりごつ

今日は歩きにいかれんね～と
ひとりごつば言いながら、
十数年ほど前、前喜で買った

イカさき用の包丁を研ぎます。倉庫の冷蔵庫には何らかの事情（キズ、小）で出荷できないイカが入っています。今年は特に、小さいものが多いです。昔、祖父母や父母のイカさきの様子をみていたので、それを思い出しながら、イカをさばっていますが、あの、スピードは真似できません。その頃は加工して出荷されていました。（昭和40年代迄）スルメイカがよく獲れていた頃、バラ（大きなかご）で何籠も配給されていました。冬は、乾きにくいので、倉庫に練炭を起こした七輪をいくつも置いて乾燥させていました。倉庫で足りない分は住居の土間をトタンで仕切り乾燥場として使用していました。当然、家中、イカのおいが充満していました。また、練炭乾燥している土間のすぐ横の部屋で寝ていたのに、二酸化炭素中毒にならなかったのは、土間は、すすで黒くなった屋根裏が見え、壁も腐食し、すき間風だらけの風通しの良い家だったからでしょう。玄関から裏口まで土間続きの古い家も、昭和48年建替えられました。

30年前の可愛い子ちゃん 三歳児健診にきていました

（箱崎地区公民館前）

（平成3年頃）

